

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 教養教育実施専門部会 および 同部会の情報・データサイエンス小委員会

(責任者名)	高田英明
(役職名)	副学長(情報・DX推進担当)

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	学生支援部において当該科目の単位取得状況を分析することができ、担当教員もLMSに記録された学修状況から受講者ごとの講義への取組状況を把握することができる。
学修成果	『教養教育の実施に係る申合せ』に基づき、当プログラムに関する科目「初年次セミナー」については、教養教育実施専門部会により授業計画、授業実施方法、成績分布の妥当性が確認され、問題がある場合には改善を行う。また、「統計学概論」「データサイエンス概論」「情報リテラシー入門」「応用情報処理」については情報・データサイエンス小委員会が同様の確認と改善に取り組む。 大学教育イノベーションセンターが実施する「受講の振り返り」により、学生自らが各授業において「よい学びができたかどうか」を振り返らせている。必要に応じて、この「受講の振り返り」の各設問項目への回答を分析して、上述の情報と合わせて、当該科目の今後の教育内容の改善に活用する。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	大学教育イノベーションセンターが実施する「授業アンケート」の名称を令和4年より「受講の振り返り」に変更し、その設問項目を学生自らが各授業において「よい学びができたかどうか」を振り返ることができる内容に設定し直した。 この「受講の振り返り」に配置した設問群二つ「この授業でのあなたの学修への意欲や態度について」とび「授業を通して伸びた可能性のある汎用的能力」の各設問項目への回答を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握することができ、その結果を当該科目の今後の教育内容の改善に活用する。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	公開されているシラバスで「受講振り返り」の結果が閲覧可能であり、前年度学生の受講結果を参照できるため推奨度を把握できる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムを構成する科目すべてを全学部の必修科目としている。 ただし、様式3の「⑧具体的な計画」に記載した通り、科目「初年次セミナー」においてAI関連の動画教材をPBLの対象とした場合を修了としている。AIに精通していない教員がこのAI関連動画を授業で適切に取り上げができるよう、動画教材の利用方針や学習課題例を解説・体験するFDを毎年実施することにより、担当教員を支援して、修了者を増やす計画としている。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	継続的に実施している3年に1度の「就職先等調査」、4年に1度の「卒業生・修了生調査」(卒業・修了後1年目は毎年)において修了した卒業生の進路先や活躍状況を把握することができる。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	令和3年度より認定されているリテラシーレベルのプログラムに関しては、本学で実施している卒業生調査において、設問項目「学部生時代の情報・データサイエンス科目への取り組みが現在どの程度役立っているか」に対して、「とても役に立っている」又は「まあ役に立っている」と回答した者が合わせて69.3%であり、プログラムでの学びが社会に出てからも活かされている。本応用基礎レベルのプログラムについても、同様の調査から把握する予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	モデルカリキュラムのリテラシーレベルの導入部分に沿う形で、社会におけるデータサイエンスの身近な事例と、自然科学、社会科学、ビジネスといった幅広い分野での応用を紹介することで、学ぶ楽しさと学ぶことの意義が理解できる学修プログラムとなっている。 また、経済産業省九州経済産業局と内閣府沖縄総合事務局が制作した「社会のデータ・AI等活用事例動画」を「初年次セミナー」の学習コンテンツとして利用している。この動画を視聴することにより実際に企業等の業務遂行に貢献しているAI実装システムを知り、AIの導入効果として解決した課題や得られた利益を考えさせ、さらに、機能拡張による他分野への適用・応用の可能性等を想像されることにより、学ぶ楽しさと学ぶことの意義が理解できるように仕向けています。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	各授業でのフィードバックおよび大学教育イノベーションセンターによる授業アンケート「受講の振り返り」を参考に、学生の分かりやすさの観点を取り入れた授業内容の改善を行うこととしている。 令和7年度に教養教育のカリキュラムを再編し、本プログラムを構成する4科目「データサイエンス概論」「統計学概論」「情報リテラシー入門」「応用情報処理」を一つの科目小委員会・情報・データサイエンス小委員会の配下に集め、科目間連携をとりやすくした。令和3年度から始まったリテラシーレベル認定プログラムの運用成果を分析し、科目「統計学概論」で扱う統計量を「応用情報処理」で取り上げて演習として組み込む等の理解度向上に繋がる改善を図った。